

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発行所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室
TEL：0263-37-2622 FAX：0263-37-3499
発行責任者：地方会長 野見山 哲生



巻頭言



新元号の時代に向けて

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 新潟県常任理事
新潟青陵大学・院・教授
中平 浩人

地方会ニュース 第4号に本稿が掲載されるのは、新元号の公表が目前に迫ってきている頃だと思います。新元号への切り替わりを前にして、産業保健について改めて考える切っ掛けが2件ありました。

一つが、所属大学が昨年秋に制定した「健康経営宣言」です。快適職場作りの機運が高まり、「教職員が、在職時より退職後の健康長寿をも見据え、こころとからだの健康保持・増進並びに生き甲斐に繋がる知識や経験を深められるよう、自ら考え行動できる環境の醸成に全学をあげて取り組んでいく」と宣言しました。その際、理事長自ら書き入れた下線部が強く印象に残りました。産業保健は、「働く人の安全と健康」を中心に展開されてきましたが、人生100年時代の今や、退職後の人生まで視野に入れるようになりました。女性・若者の活躍や子育て・介護と仕事の両立などの若い世代の課題も考え合わせると、産業保健は、経営層の理解を得て、誰もが人生のどの時点においても生き甲斐を持てるよう支える役割が求められます。

もう一つは、昨年度地元紙が企画した「新潟県を元気にしたい」をテーマにした提言募集です。人口減少や少子化などの課題を抱える地域を元気にするにはどんな取り組みが必要かを、地域部門と産業経済部門の2部門で募りました。記事を見た時、労働力人口減少による人材不足を背景に、すっかり経営層のキーワードになった『健康経営』が浮かびました。このお陰で、多くの経営層が産業保健に関心を寄せてくれる好機となっています。この機に、『健康経営』の本質は自立型産業保健の継続的实践であることを経営層に認識し実行してもらう取組が求められます。特に、小規模事業場に対しては、保健行政の枠組みを超えた支援が望まれます。その結果、事業場が幸せになり、働きがい生まれ、生産性が高まり、人が集まり、そういう職場が増えることにより、地域が元気になると期待されます。

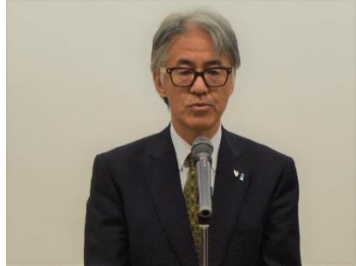
身近な出来事を切っ掛けに、産業保健は人の一生を考えるのに必要な要因であり、さらに地域の将来の議論にも産業保健の視点で加わることが可能であると、新元号の時代に向けて、考えを新たにしました次第です。

※健康経営はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

第61回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会報告

平成30年10月21日(日)、第61回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会が、石川県金沢市の金沢商工会議所会館にて学会長・安田健二先生(石川県医師会長)、事務局長・石崎昌夫(金沢医科大学衛生学)のもと開催された。

午前中は、一般演題の発表が行われた。北陸甲信越6県より9演題の発表があった。発表者は著名な先生から学生まで幅広く、産業



大会長 安田健二先生

衛生に関する多岐にわたる内容の発表が行われ、質疑応答も含め活発な議論が交わされた。一般口演終了後、学会長・安田先生の歓迎のご挨拶の後、議長・野見山哲生先生(地方会長)の進行のもと地方会総会が開催された。総会では前日の理事会で承認された議題を含めた案件が地方会事務局より提案され満場一致で承認された。

昼休憩には、「産業医部会総会」「産業医部会運営委員会」「産業看護部会総会・交流会」がそれぞれ開催され、活発な意見交換がなされた。

午後からは、「高齢労働者のウェルビーイングを考える」をテーマとした特別講演・シンポジウムが行われた。最初に特別講演として、株式会社PCAコンサルティング常務執行役員 エグゼクティブコンサルタント

の福原信昭先生から、キャリアの視点からみた高齢労働者の課題や、ウェルビーイングを高めるために企業と労働者の関係づくりの重要性が解説された。続いて、シンポジウムとして能川和浩先生(千葉大学大学院医学



特別講演 福原信昭先生

研究院環境労働衛生学)、西澤依小先生(西日本旅客鉄道(株)金沢健康増進センター)、室野奈緒子先生(株式会社PFU健康管理室)、杉村昌則先生(共和電機工業株式会社)の4名の先生から、各々産業医・産業看護

職・衛生管理者の立場から、職場での高齢労働者に対する健康管理・増進活動の取り組みについて報告して頂き、総合討論を行った。少子高齢化や生産年齢人口の減少にともない高齢者雇用対策は重要な課題であり現状や課題について広く議論が行われた。



なお、今回は前日の10月20日(土)に田畑正司先生(石川県予防医学協会)を講師として産業医部会・産業看護部会共催で特別企画ワークショップ「ストレスチェックを利用した職場改善を進めるために」が石川県文教会館で行われた。参加者16名が3グループに分かれ、グループ内討論、発表が行われた。ストレスチェック制度を職場改善につなげるために、何が不足しており、それに対してどのような対策をとれば良いかについて、日頃から産業現場に深く関わる医師、保健師、衛生管理者の方々が意見を交換し合うことができ、参加者からも好評だった。



今回、学会開催するにあたり、共催頂いた石川県医師会、石川県産業保健総合支援センター、一般演題の募集に協力頂いたり座長等で会の運営に関わって頂いたりした役員の先生方、開催にあたり様々なご助言を頂いた信州大学の地方会事務局の方々、そして参加されたみなさまに深く御礼を申し上げます。

(文責 石崎 昌夫)

地方会事業から

◇富山県の産業保健活動

医部会は富山県産業医会や富山県産業看護研究会と連携して活動を行っています。富山県産業医会（会長：藤澤貞志；平成6年設立）では、年2回の研修会（平成30年は「大人の発達障害」と「ブルガダ症候群」と自由なテーマ選びに尽力）、研究（「富山県下の事業場における産業保健の現状と課題に関する調査研究」稲寺秀邦）への助成及び総会での発表、会員へ推薦書籍の配布、地方会の情報を産保センターへ提供する等、産業医を中心に産業保健職全体へ労使双方に中立かつ組織に縛られない形で情報提供・研修を行っています。

富山県産業看護研究会は看護部会として平成18年に設立されました。年6回の産業看護セミナー、年2回の交流会、年1回の学術集会、年4回のニュースレター発行等を行っています。学術集会には産業医も参加し、産業看護職から提供される現場ベースの活動報告やデータ解析結果を題材にグループワークを行い、知見の交流を深めています。多様化・複雑化する産業保健の課題に対応するためには、産業医と産業看護職の連携が不可欠です。富山県では今後も相互の視点を尊重し、質の高い産業保健活動を推進していきたいと思えます。

（文責 松永 康弘、中林 美奈子）

◇産業歯科保健部会事業と地方会部会事業

産業歯科保健部会の事業と活動についてご紹介いたします。2006年にそれまでの職域口腔保健研究会から独立した形となり、第4番目の部会として本会から設立・承認されました。毎年様々な研修・講習会を開催し、共同研究や産業歯科保健に関する情報収集や提供を行ってまいりました。

昨秋は全国協議会（東京工科大学）において以下の事業を主催いたしました。

①4部会合同シンポジウムでは部会長の加藤元先生が「遠隔化と地域保健の融合」と題して近未来の（2035年）産業歯科保健のあり方などSF映画のような大変興

味深い講演していただきました。②教育講演では「現代・安衛法『歯科特殊健康診断』の考え方、やり方」と題して第一人者である矢崎武先生が講演され、歯科特殊健康診断は法定項目でありながら成書はあまりなく、隔靴搔痒な部分をつまびらかにした内容でありました（座長：藤田雄三先生、指定発言：戒田敏之先生）。③部会企画として産業歯科保健フォーラムでは「さあどうする？特定健診の標準的な問診項目に歯科項目が加わって」と題して安藤雄一先生と吉岡みどり先生に講演いただきました（座長：尾崎哲則先生）。特定健診・特定保健指導の早（速）食いとメタボリックシンドロームとの関連では、当地方会の中川秀昭先生と桜井勝先生の疫学研究論文がエビデンスとして採用されましたことは大変素晴らしいことであるとともに疫学研究の重要性を痛感いたしました。

また、産業歯科保健部会北陸甲信越地方会の事業・活動として昨秋、11月25日に石川県歯科医師会（蓮池芳浩会長）と共催で第1回産業歯科保健研修会（「はたらく人たちの歯科特殊健康診断」）を開催いたしました（演者Ⅰ田畑正司先生；労働衛生一般、演者Ⅱ曾山善之；歯科特殊健康診断；筆者）。歯科医師67名、歯科衛生士19名もの多数の参加があり、部会の理念の一つの教育・研修に役立てられたかと思えます。なお、石川県歯科医師会公衆衛生担当理事の江尻重文先生には多大なご協力をいただきました。石川県予防医学協会と連携し、特殊健康診断の受け皿拡大と質の担保につなげるために行われ、研修会修了者（希望者）には石川県歯科医師会認定の産業歯科医として登録され、益々多くの産業歯科医が産業保健の場で活躍していくことを期待いたします。

（文責 曾山 善之）



会員の取組み

「ベテラン?産業医の与太郎話」

新潟医療福祉大学
特任教授 遠藤 和男



日医の産業医を取得したのは1986

年、産業医としては大手化学工場に32年間勤務、子会社や官庁にも関係し、昨年5月からは健診団体として有名な協会で、産業医業務のみに追われております。

ベテラン?だからとよく聞かれるのは、職場巡視についてであり、「改訂 写真で見る職場巡視のポイント」が有用です。特に責任者や誘導線の明示、階段の滑り止め防止、段差の解消などが観点であり、粉塵清掃や洗眼器点検などは最低限です。また休養室と休憩室との違い、照度基準などはご存知でしょうか? 私は照度計をカバンに入れてあります。コメントする場合「企業の理念」はともかく、いわゆる「見える化」や、理念に沿って職場改善に取り組んでいるかなど、まず良い所をほめるのは、学生への評価と同です。グループ討議を実施していれば、中小企業では高得点です。

ただし、「何でも無い科」(公衆衛生、疫学専攻)の私としても、精神衛生は苦手であり、今年全衛連主催の研修会に出席しました。修得した要点は、1)初めから心療内科や精神科に行くケースは少ない、2)「双極性Ⅱ型」では躁の病相がⅠ型より長く、職場ではいわば「なまけ病」と認識されている、3)いわゆる「新型うつ病」では、自己愛や他人への非難が強い、4)精神科の主治医は、患者さん用に甘く書く傾向がある、5)就業規則によるものの、残業や出張の禁止は「通常勤務」とは言い難い、6)家族への事情聴取なしに解雇すると、訴えられる場合がある、などです。

皆様も1)から4)については、やはりという実感や経験がおありでは? しかし、4)から6)が問題です。連携教育を推進している立場からすると、我々産業衛生に関与している、職場の人事担当、各専門職種と本人及び家族との相互の、より一層のコミュニケーションが、解決への道と考える次第です。

以上、「酔った老」話でお目を穢しました。

「産業医の集うところ」

山梨県医師会理事 (産業保健担当)
小林 正洋



私は、昨年6月より、前任の故大

芝玄先生の後を引き継ぎ、山梨県医師会理事となり産業保健を担当しております。また産業医としても未だ駆け出しの身でありながら日本産業衛生学会北陸甲信越地方会の理事というこれまた大役を拝命し、昨年9月の金沢で行われた地方会と理事会に出席させていただきました。戸惑いながら日まぐるしく9か月が過ぎましたが、この間に産業保健活動を通じて感じ、また考えたことを簡単ではございますが述べさせていただきます。現在、山梨大学医学部には産業衛生の教室はなく、山梨県の産業保健は県医師会主導であり大学には足元にも及ばないレベルですが微力ながら山梨の産業衛生の向上に励んでおります。第40回産業保健活動推進全国会議において日医の資料によると産業医会が設置されている県は47都道府県のうち20県、産業保健委員会が設置されている県は40県となっています。山梨県には、医師会員による産業医会はございませんので、産業保健委員会が大変重要な位置づけにあり、年に2回産業保健委員会が開催されます。

昨年より新しい県医師会館が完成し、県の産業保健支援センターが会館内で運営されており、産業保健委員会は産保センターと連携し山梨の産業保健を支えておりますが、産業保健委員会での資料によると山梨県では日医認定産業医は2018年12月30日現在294名で、実際事業所で活動されている先生は180名(57.5%)とのこと。今後はさらに多くの先生がた(特に若い先生を中心に)に産業医活動に参加していただき、県内で産業医活動の発表の場等をとおして産業医の集うところを先ず作っていかねばならないと考えております。産業医の集うところから関連職種に輪が広がり全体として、産業衛生学会へとつながっていくと考えておりますので、皆さまによりお知恵、ご意見あるいはご指導いただきながら、今後山梨の産業保健活動を活発にしていきたいと思っております。

私たちの職場 『セイコーエプソン株式会社 広丘事業所 健康管理室』

当社の産業保健活動の変遷と産業看護職の役割

岩野 麻里奈

セイコーエプソン株式会社は、1942年に長野県諏訪市で創立されました。長野県内を中心に国内14事業所、社員数約12,800名で、プリンターやプロジェクターといった情報関連機器を中心に、ウォッチやウェアブル機器、ロボット、マイクロデバイスなどの事業をグローバルに展開しています。健康管理については全事業所統一した目標を掲げ活動しています。その中で、広丘事業所 健康管理室は、専属産業医3名、嘱託産業医3名、看護職11名、臨床心理士1名の計18名で構成されており、広丘事業所に在籍する社員約5,800名を健康管理面からサポートすることに日々奮闘しています。



産業看護職は一人当たり500～700名の社員を担当し、職場巡視などの労働衛生活動から、健康診断結果に基づく事後措置、メンタルヘルス、過重労働対策、新たな感染症対策、海外渡航者を対象とした健康管理などの産業保健活動を行っています。

さらに最近では、社会情勢に合わせた活動や会社経営リスクに焦点を当てた活動がより求められるようになり、治療と職業生活の両立支援のあり方や健康経営、職場改善活動、受動喫煙対策（喫煙所の屋外化推進）に着手しています。この変化の中で、産業看護職は社員にとっての身近な相談者から、個人と組織両方の健康支援を行う担当者となり、さらには企業の発展に健康面から貢献することを期待されています。

しかし、こういった役割を理解しつつも、約5,800名の社員を前に多忙な日常業務に追われてしまっているのが職場の現状です。健康管理室のチームとして、求められることを理解し、役割にどのように向き合っていくかが問われる状況を迎えています。悩むことも多いですが、私たちの職場には、ありがたいことに大勢の産業保健スタッフがいますので、皆で考え答えを出し合いながら課題に取り組んでいます。そして、行った取り組みを評価し、よりよい活動に繋げていきたいと思っています。今後は、地方にある利点を生かしての充実した産業保健活動を行い、自社で取り組んだ活動を社外へ発信し、産業保健活動の向上に貢献できるように努力していきたいと考えています。

しかし、こういった役割を理解しつつも、約5,800名の社員を前に多忙な日常業務に追われてしまっているのが職場の現状です。健康管理室のチームとして、求められることを理解し、役割にどのように向き合っていくかが問われる状況を迎えています。悩むことも多いですが、私たちの職場には、ありがたいことに大勢の産業保健スタッフがいますので、皆で考え答えを出し合いながら課題に取り組んでいます。そして、行った取り組みを評価し、よりよい活動に繋げていきたいと思っています。今後は、地方にある利点を生かしての充実した産業保健活動を行い、自社で取り組んだ活動を社外へ発信し、産業保健活動の向上に貢献できるように努力していきたいと考えています。

リレー形式で会員の皆様の紹介をつないでいきます！

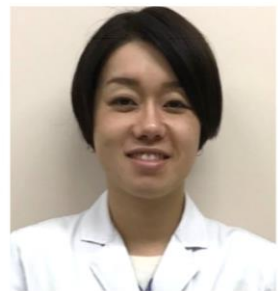
一般財団法人北陸予防医学協会とやま健診プラザ
田添 貴子 様からのご紹介でスタート♪
「富山県産業看護研究会でお世話になっている先輩保健師さんです。」



笹尾 洋子

所属：ユニー株式会社北陸事務所
職種／役職：保健師
好きな言葉：ローマは一日にしてならず
ひとこと：弊社従業員の健康度アップと環境整備に取り組みます。

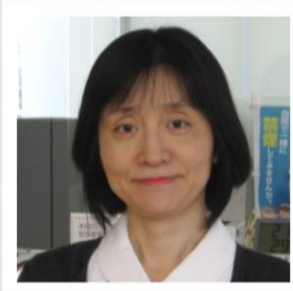
研修会
仲間



室野 奈緒子

所属：株式会社PFU 健康管理室
職種／役職：保健師
趣味：海外ドラマ鑑賞
ひとこと：大学院（修士）に通い取り組んだ研究結果を、来年度は何らかの形で発表できるよう頑張りたいと思います。

産業医の中川秀明先生からご紹介して頂きました。素敵な看護職の先輩です！



岡元 千明

所属：YKK(株)健康推進室 黒部健康管理センター
職種／役職：看護師/健康管理センターリーダー
趣味：旅行（日本全国あちこち）
ひとこと：ストレスチェック後の職場環境改善に奮闘中です。安心して働くことが出来る職場作りが目標です。

会員 Relay ☆三

次号へ

新入会員紹介

異動のご挨拶

福井大学学術研究院医学系部門
国際社会医学講座 環境保健学分野
平工 雄介



福井大学の平工（ひらく）と申します。日本産業衛生学会には2006年に入会しました。当時は三重大学に在籍しており、最近まで東海地方会で活動してきました。2018年10月1日付で日下幸則先生の後任として、福井大学医学部環境保健学分野の教授に着任し、地方会は北陸甲信越地方会に異動することになりました。研究活動では、産業化学物質による発がんや呼吸器疾患などの健康障害のメカニズムの解明を目的として、培養細胞や動物を用いた実験研究やヒト生体試料を用いた分子疫学研究を行っています。最近では、石綿、ナノ素材、インジウムなどの繊維・粒子状物質による健康障害に関する研究を中心に行っています。このような基礎研究の成果が将来、産業医学分野における疾患のリスク評価や予防につながることを期待しています。実務では福井大学松岡キャンパス（医学部・附属病院）の産業医を務めていますが、不慣れなことが多いため、経験豊富な先生方からのご指導を頂くことがあるかと思えます。北陸甲信越地方会の発展に微力ながら貢献していきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

事務局から

日本産業衛生学会役員・地方会長 選挙結果

選挙の結果、本部理事・代議員・地方会長は以下の通りとなりました。

<本部理事>

野見山 哲生 石崎 昌夫

<代議員>

富山：稲寺秀邦

石川：城戸照彦、森河裕子、田畑正司、石崎昌夫、

中川秀昭、服部真、南昌秀

福井：松原六郎、佐藤一博、黒田譲、高山英之

山梨：金子誉、高橋英尚、小田切陽一、井上勝六、

角田ひろみ、依田芳起、佐々木勝彌、丸山猛士、

大高雅彦、宮村季浩

長野：野見山哲生、福嶋義光、塚原照臣、飯塚康彦、
松澤幸範、川上智子、藤澤美和子、小林きよみ
新潟：鈴木美和、興梠建郎、中平浩人、三間聡

<地方会長>

野見山 哲生

日本産業衛生学会の選挙の概要

今回、日本産業衛生学会の役員改選に伴い、理事、監事、地方会長、代議員が選出されました。本学会では、2年に1回、役員選挙を行っています。

役員選挙の公示は、役員任期終了年度の7月1日までに、中央選挙管理委員会によって行われます。そして、選挙年7月末日までに会費を全納している会員のみが選挙人（選挙権及び被選挙権を有する）となり、選挙人名簿を確定します。

その上で、各地方会選挙管理委員会によって代議員選挙、地方会長選挙を実施し、10月末までに結果を中央選挙管理委員会に報告します。代議員は11月1日から、2年間の任期となります。

次に、各地方会選挙管理委員会によって、11月1日から任期を務める代議員を選挙人とし、理事候補者選挙を実施し、その結果を選挙年度の12月25日までに報告します。

最後に、中央選挙管理委員会によって監事選挙の公示を行い、選挙を実施します。選挙人は代議員です。

地方会長、理事、監事は、選挙年度の翌年度に開催される総会で承認を受け、当日から2年後の総会までの任期となります。

次回の選挙は来年の秋に実施されます。会員の皆様には積極的にご参加頂けますようお願いいたします。

今後の行事案内

○平成31年度北陸甲信越地方会 常任理事会

日時：2019年6月15日（土）13:00～15:00

会場：長野東急REIホテル（長野市）

○第62回北陸甲信越地方会学会総会

開催日：2019年10月19日（土）理事会

20日（日）学会・総会

学会長：長野県医師会会長 関 隆教 先生

会場：ホテルメトロポリタン長野

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第4号を発行することができました。今号でも、各県の会員の皆様に各記事の執筆を賜り誠にありがとうございました。ご意見やご感想を今後のために編集委員まで頂ければ幸いです。

編集委員（五十音順）

編集委員長：森河 裕子

副編集委員長：塚原 照臣

編集委員：池田 裕子、稲寺 秀邦、遠藤 和男、

小坂 智恵子、佐藤 一博、高山 英之、

角田 ひろみ、西澤 依小、松永 康弘

事務局：上條 知子、水木 将